

人がそこに入って、豊かな時間を過ごせるかどうか、それを第一に考えて、さまざまな仕掛けを提案します。

住人が集う、四季の移ろいを身近に感じる前庭

くつろげる場所を提案したいという思いから、前庭のデザインを積極的に行った。シンボルツリーと鮮やかな色のベンチが、住人を温かく迎える。半円形プランの屋外階段も乗らかさを演出。最上階の3階天井にはダイナミックな傾斜がつき、最高3mの天井高。風の流れを考慮して設けられた窓からは、たっぷりの光が、清々しい開放感を感じる住まいだ。

DATA メゾンユニテ	
●所在地	東京都国分寺
●構造	鉄筋コンクリート造
●階数	地下1階地上2階建て 11戸
●間取り	56.14㎡～

女性建築家のまなざし

02 一級建築士 後藤眞理子

光と風と緑。自然の良さを取り入れた住まいを目指して

後藤先生が建築の仕事を始められたのは、1980年代。先生はまさに、女性建築家の草分け的存在だと言える。最近オーナーの中に、女性だからこその感覚を建築に生かしてほしい、という意識があるようですが、後藤 オーナーが夫婦の場合ですと、奥様の方が発言権を持っていることが多いですね。やはり、女性の方が家にいる時間が長いので、家に対しての思い入れが違います。生活感を共有できる相手として、あえて女性建築家を選ぶオーナーは少なくないと思います。

先生にはお子さんがいらっしゃいますが、それとお仕事との関係は？

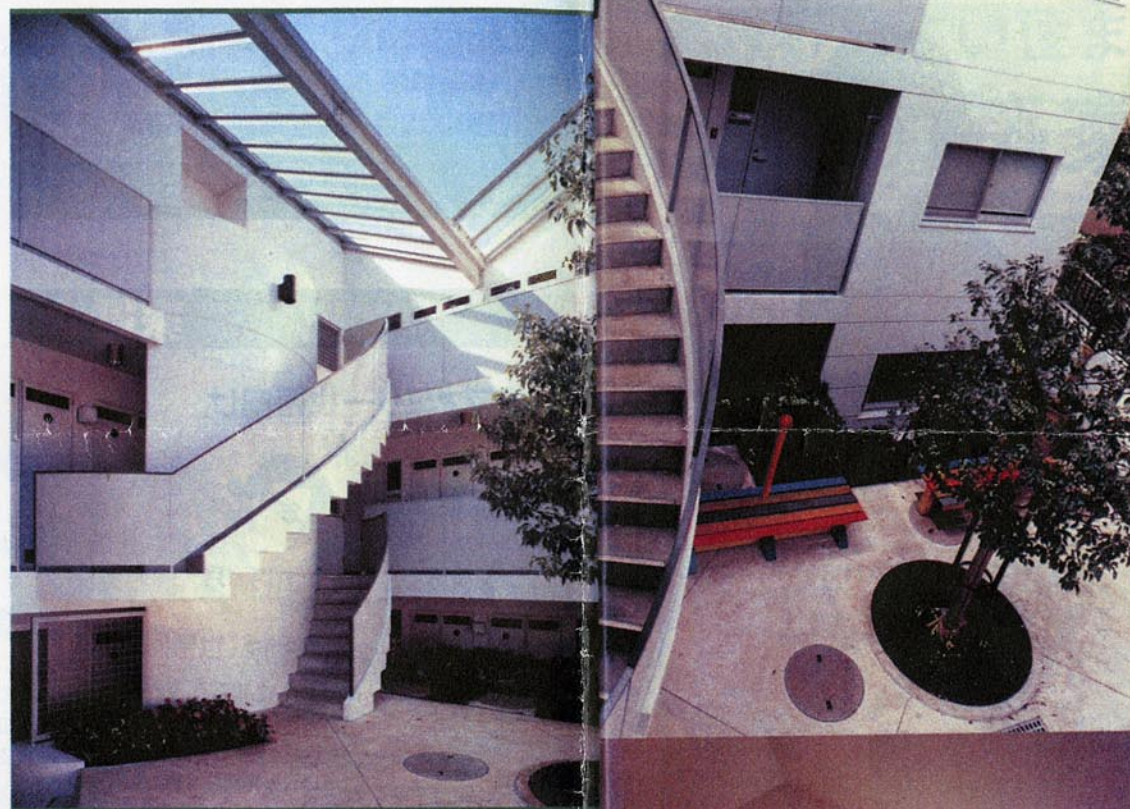
後藤 子育ての経験は、私の仕事に大きな影響を与えてくれました。住居というのは人が生活する所ですから、リアルな日常があるわけです。子育てをしながら、どうすれば生活の流れがスムーズになるかを考え、設計に取り入れる工夫をしてきました。それが女性ならではの視点として、家事動線や収納の位置、また、風通しの良い心地よい住まい、という私の建築のテーマに反映されているのかもしれない。

賃貸の集合住宅の設計は、入居者が不特定なので難しくないですか？

後藤 いえ、賃貸の集合住宅は建築家にとつて、おいしい仕事です。オーナーが何を望んでいるかという点、なるべく建設費を抑え、その後は収益が上がるように、というのが第一で、「あとは少しでも入居者が気持ち良く暮らせるよう、考えてあげてね」と。要するに、建設費の範囲内なら建築家の意図するものを可能な限りプランに入れられるんです。例えば「建築基準法の最大値で建てないで、前庭を作ったらどうでしょう。良好な居住空間が生まれて住み手の満足度も上がりますよ」などと提案する。暮らしやすい空間であれば、空室になる頻度も少なくなるし、出ていったとしてもすぐに埋まります。オーナーも勉強していらっしゃるから「それは良いですね。お任せします」となることが多いわけです。

後藤先生の集合住宅におけるプランの特徴を教えてください。

後藤 若い頃、子連れでイタリアのローマで生活する機会がありました。そこで、ヨーロッパの建築というものがいかに風土と文化に根ざしているのを知り、ショックを受けました。帰国後、決して快適とは言えない家が多い日本の現状に、今後、私がかかわるものについては、日本という風土の中で、抜いてはいけない、と思うことを可能な限りやってみよう、と決意しました。具体的には、ジメジメとした湿気の多い日本の気候を考慮し、光あふれる風通しの良い家を作ること。家にながらにして四季を感じられるように、敷地内に前庭や中庭などを設け、自然に触れてもらうこと。室内は、ふすまの良さを活かした引き戸を多く使い、フレキシブルな空間にすること。などでしょうか。今後は、そこに立つ建築が、良い街づくりのきっかけになるような提案をしていきたい。と語る後藤先生である。



後藤眞理子さんの「建築家から住み手の方へ」

Q 自分が設計した部屋でどう暮らしてほしい？

A 部屋にいる間は穏やかな気持ちで、ゆったりと過ごしてもらえると嬉しいです。室内はパランスを考え、シンブルに作ってあります。あとは住み手の方の感覚でお部屋を完成させ、くつろいでいただければと思います。

Q お部屋を探している人にアドバイスしてください

A 「箱」である住まいに人が入ることで、「暮らし」というリアルな生活が始まります。ただ「素敵だから」という理由で決めることなく、自分がその場所について本当に居心地が良いかどうか、それを見極めることが大切です。



後藤眞理子 Mariko Goto
「木や緑も、建築計画の大事な要素です」と語る後藤先生。いつの頃からか、その建物の象徴となるようなシンボルツリーを植えるようになった。

(株)後藤眞理子デザイン事務所主宰。一級建築士。東京工業大学建築学科卒業。1976年後藤眞理子デザインアトリエ設立。1978年イタリアに居住し、都市や住宅を視察。帰国後、現代設計研究所設立。1982年現事務所へ改称。講演・執筆・委員会活動等多岐。品川区東五反田1-5-1 ユニブル島津山503 TEL 03-5792-7071 FAX 03-5792-7072



機能性と心地よさ。ともに兼ね備えた工夫に満ちた空間

コンクリート打ち放しの外観。シンボルツリーと植え込み、美しい2種類の石材が住人の目を和ませる。室内はナチュラルテイストのワンルーム。食卓としてだけでなく、作業台としても使えるカウンターが目を引き。キッチン背後には洗濯機置き場と収納、冷蔵庫置き場が。家事の作業効率も良い。テラスはウッドチップ敷き。

DATA アネルセン	
●所在地	神奈川県横浜市
●構造	鉄筋コンクリート造
●階数	地上2階建て 8戸 ●間取り 27.31㎡

暮らしやすい住まい探しの3つのテーマ

住みやすさ
住まいは生活の基本だから、周囲の環境にも敏感でありたい。安心して暮らせるかどうか確かめるのは言うまでもなく、交通や街の利便性も確かめて。

使いやすさ
家事動線の良さ、掃除のしやすさなどは毎日の生活にかかわるから、玄関、キッチン、バスタイレの使いやすさをチェック。収納は数や容量にもゆとりが欲しい。

心地よさ
採光、通風、そして開放感があり、ホッとできる空間であるか、あなたの感覚を大切にしよう。その部屋を愛しみながら住めるか、自分との相性を確かめて。

CHINTAI'S MESSAGE

最近までデザイナーズマンションというワード、住みやすさよりデザインが優先される傾向が強かった。しかし、昨今、借り手の「もっと住みやすく」という声に押されるように、デザイナーズマンションが変わりつつある。中でも女性建築家の手掛けた集合住宅には、そこに生活する者への温かい眼差しが感じられるものが多い。それはやはり女性の方が、より深く生活全般にかかわっているからだろう。暮らしのディテールにまで目が行き届いた住まいは、男性にとっても魅力的なはずだ。